

令和3年度第1回公立大学法人福知山公立大学評価委員会 議事録概要

1 日時 令和3年5月17日(月)13:00～15:30

2 場所 オンラインルーム I
評価委員会委員4名は Zoom での参加

3 出席者

委員	(リモート参加)青山委員、大久保委員、菊田委員、中井委員、 (会場参加)細見委員
福知山市	渡邊副市長、田村室長、岸本課長、井上補佐、川村、中田

4 会議概要

議題・報告事項	内容
【議題(1)】 令和3年度評価委員会スケジュールの確認について	事務局から【資料1】により説明。
【議題(2)】 令和2年業務実績評価の方針について	事務局から【資料2】により説明。 (主な意見) ■ 実施できなかった事業の代替策について努力してもやむを得ずできないであろうとされるものについて「評価不能」ということにすべきではないか。
【議題(3)】 中期目標の終了時の検討について	事務局から【資料3】により説明。 (主な意見) ■ 認証評価機関及び評価委員会の評価のみをもって継続させるという判断をするのではなく、設置団体として、今後の大学の存在意義も含めて検討した方がよいのではないか。
【議題(4)】 第2期中期目標の策定について	事務局から【資料4】【資料5】により説明。 (主な意見) ■ 「福知山モデル」の定義を明確にするべき。 ■ 大学院は地域経営学部と情報学部の文理融合型で設置する必要があるのではないか。

5 次第

(1) 開会挨拶 渡邊副市長

(2) 議題 (1) 令和3年度評価委員会スケジュールの確認について

【資料1】により、令和3年度評価委員会スケジュールを説明。

(3) 議題 (2) 令和2年業務実績評価の方針について

【資料2】により、令和2年業務実績評価の方針について説明。

(委員)

- 今後も不慮の事態で計画が達成できない状況になることはあると思う。代替策を検討したが、実施できなかったことがやむを得ないという場合に「評価不能」とすべきで、代替策等がないから「評価不能」ということにはならないのではないか。努力してもやむを得ずできないであろうとされるものについて「評価不能」ということにしてはどうか。
- 代替策をどう検討したのかという過程を明らかにする必要がある。コロナウイルス感染症の影響で、オンライン環境を整備するなど普段後回しになっていたことができた部分もある。新型コロナウイルス感染症の影響を受けた項目と受けなかった項目を明らかにし、受けた項目についてはどういう代替策を実施したかを具体的に業務実績評価で明らかにすべき。
- PBLの授業を導入している大学ではコロナ禍で学生を連れて地域で演習をするということがしにくくなったが、オンラインで地域と密接なコミュニケーションがとれるようになったということがある。

(4) 議題 (3) 中期目標の終了時の検討について

【資料3】により、中期目標の終了時の検討について説明。

(委員)

- 業務を継続させる必要性について、認証評価機関及び評価委員会の評価のみをもって継続させるという判断に加え、設置団体として、今後の大学の存在意義も含めて検討した方がよいのではないか。

(5) 議題 (4) 第2期中期目標の策定について

【資料4】、【資料5】により、第2期中期目標の策定について説明。

(委員)

- リカレント教育というリタイアした人の再教育の機会の提供というものが主になっていて、現役で働いている社会人の教育ができない。夜間や休日の講義などの体制づくりが必要。学部から大学院に進学する学生と社会人院生がともに学ぶということは教育上非常に効果がある。例えば、工業団地に勤めている人が受講できるような体制が必要なのではないか。情報学のIoT、DX等だけでは取り残される。地域経営学部と情報学部が文理融合した形で大学院を設置する必要があるのではないか。文理融合だと様々なアイデアが生まれる。
- 第1期中期目標には、本来中期計画に記載すべきような細かい項目があった。中期目標を中期計画で具体化できるよう法人と意思疎通する必要がある。「福知山モデル」は、市が法人に対して実現するよう命令するものなので、明確に法人に示さなければ

ならない。中期目標で実現したいことを正しく中期計画にしなければ、評価委員会としても正確な評価ができない。「福知山モデル」の実現のために地域情報学大学院が必要だという意味付けが必要。

- 「福知山モデル」の定義が明確になっていない。福知山公立大学将来計画と第2期中期目標（案）に書いていることが微妙に異なっている。「福知山モデル」が概念なのか、具体的な施策か分からない。前文にウィズコロナ社会への対応とあるが、6年後にそのようなことは言われてないのではないかと。目指すべき大学像では、市と法人が共通した大学像をもっているということが明確に分かるようにしたほうがよい。
- 「福知山モデル」が分かりにくい。第1期中期目標においては、地域住民の誇りとなる魅力ある大学ということが入っていた。第2期中期目標はスマートになっているが、立ち上げたときの理念が薄まっているように感じる。北近畿の人材の流出を止めることに寄与できる大学だと思うので、そのことも重視したほうがよい。
- 業務運営、財務内容の改善について、市民としては、費用対効果が気になっている。健全な経営、財務的な安定が大学院の設置や地域との連携、教育レベルの向上につながる。地域の産業界との連携が非常に重要。
- 研究体制のところは外部資金の獲得等を書いておく必要があるのではないかと。運営費交付金だけに頼るのではなく、自主経費、特に科研費等の外部資金の獲得が必要。グローカリストという記述があるがグローバルに関する視点がない。第1期中期計画に基づく年度計画にもグローバルに関する項目があるので、必要ではないかと。

6 閉会

以上